

# 食用なばな・秋冬どり（品種：サカタ88号他）

安房農林振興センター

## 1 地区名（集団名）

鴨川市（鴨川市農林業体験交流協会）

## 2 栽培戸数、面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

- (1) 栽培戸数 8戸
- (2) 栽培面積 40a
- (3) 収穫量又は出荷量 1.6t
- (4) 出荷先又は販売方法 主に摘み取り体験として販売

## 3 ちばエコ基準達成状況

区 分	実施状況	ちばエコ基準
化学合成農薬(成分回数)	0回	7回
化学肥料（窒素分量）	15.2kg/10a	20kg/10a

## 4 事例のあらまし

鴨川市農林業体験交流協会は、農業体験の受け入れや農産物販売の拠点施設である総合交流ターミナル「みんなみの里」の管理・運営を市から委託されている団体です。

「ちばエコ農産物」の栽培を積極的に取り組んでいるだけでなく、直売所の販売スペースにちばエコ農産物専用コーナーを設けるなど、販売面でのアピールも行っています。

今回は、農業体験メニューであるなばな摘みの栽培において「ちばエコ農産物」の認証を受け、「食用なばな」の栽培に取り組みました。

## 5 背景・動機

鴨川市の長狭地区にある「みんなみの里」を管理・運営している鴨川市農林業体験交流協会では、環境に配慮した農業を推進することで、地域に残る美しい自然景観を守るとともに、消費者ニーズに対応した安全・安心な農産物の供給を図っています。また、都市住民等の観光農業体験の受け入れにも力を入れ、都市と農村の交流に大きく貢献し

ています。

「みんなみの里」では、農業体験メニューやレストランの食材原料として「ちばエコ農産物」の利用を推進しており、これまでも水稻やえだまめでの栽培実績があります。

そして今回は、安房地域の冬野菜を代表する食用なばなの認証を受けることになりました。

この食用なばなは主に農業体験に利用するため、環境への配慮を消費者にアピールする絶好の機会になるのではないかと。また、本協会のほ場でちばエコ栽培に取り組むことで、農産物を出荷している生産者の方々への展示効果も高いのではないかと。

このような考えが、「ちばエコ農産物」として栽培に取り組む動機となりました。



◀栽培ほ場の様子



食用なばなを摘み取る観光客▶

## 6 栽培方法

### (1) 土づくり

牛ふんを原料とした完熟たい肥を施用して土づくりを行うとともに、たい肥の施用量を増やし化学肥料の削減を行いました。

### (2) は 種

農薬の使用をなるべく控えるため、病虫害の発生が少なくなる時期までは種を遅

らせる工夫をしました。また摘み取りの期間を長くするために、3回に分けては種を行いました。

### (3) 施肥

たい肥や土壌改良資材として施用した石灰窒素の施用量を考慮して、化学肥料の低減を図りました。

### (4) 病虫害防除

病虫害の少なくなる時期までは種を遅らせたことで、病虫害の発生を抑えました。また、生育に大きな被害を及ぼすものに的を絞って農薬を使用するように計画し、ほ場で病虫害をよく観察するよう心掛けました。その結果、予定していた農薬の散布は行われず、農薬使用回数を0回にすることができました。

## ア 栽培管理

作業名	実施年月日
前作収穫終了	平成18年 8月30日
耕起	9月20日～10月15日
播種	9月25日～10月18日
収穫開始	12月25日～
収穫終了	平成19年 2月21日

## イ 使用資材

### (ア) 土づくり・施肥等

(10 a 当たり)

使用銘柄 (N:P:K)	実施年月日	施用量	全 N	化学N
牛ふんたい肥	平成18年 9月20日	3t		
石灰窒素 (20-0-0)	9月 1日	20kg	4kg	4kg
野菜専用 (14-14-14)	9月20日	80kg	11.2kg	11.2kg
合 計			15.2kg	15.2kg

### (イ) 病虫害・雑草防除等

使用農薬	対象病虫害	実施年月日
スタークル粒剤	アブラムシ類	散布せず
フォース粒剤	キスジノミハムシ	散布せず
パダンSG水溶剤	アブラムシ類、コナガ	散布せず

## 7 今後の展望等

今回の取り組みによって、食用なばなにおける「ちばエコ農産物」栽培基準を満たすことは十分可能であることがわかりました。

また、「なばな摘み」として農業体験に利用したことで、生産者だけでなく消費者に対しても「ちばエコ農産物」のPRを行うことができました。

今後はこの結果を基にして、生産者への栽培推進と消費者の認知度をさらに向上させていく予定です。